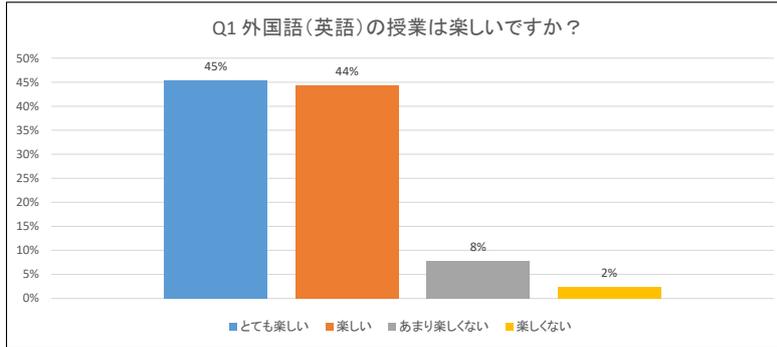
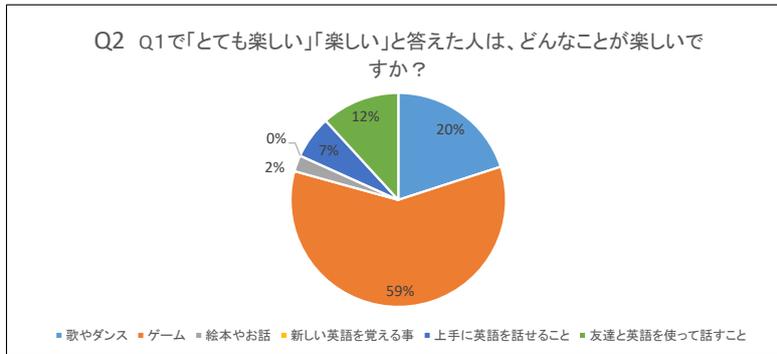


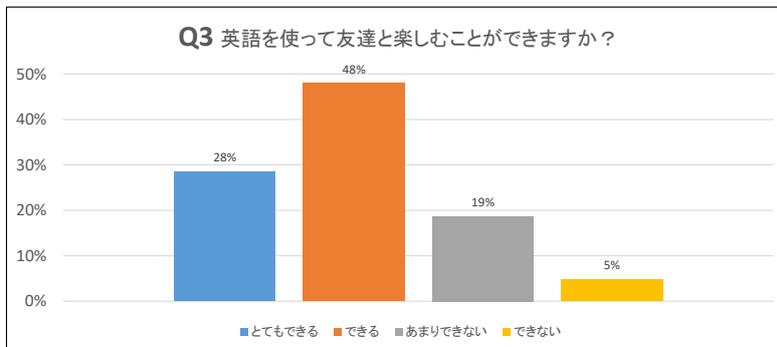
令和4年度外国語(英語)の授業に関する児童用アンケート調査結果の分析・考察(宇城市)



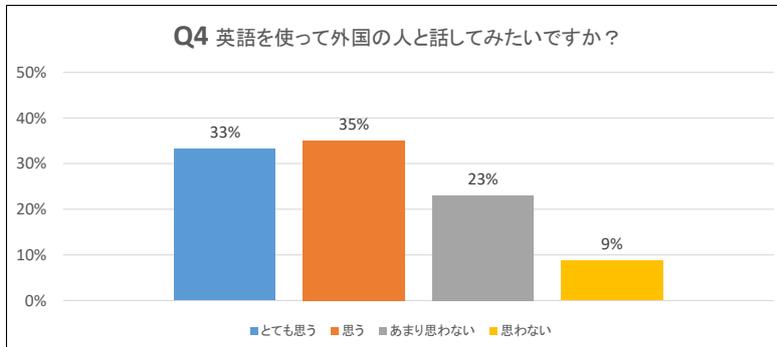
【Q1について】
 宇城市全体では、「とても楽しい」「楽しい」と答えた児童が全体の約9割であり、前年度と同じであった。英語の授業を参観してみると、児童が英語を楽しみながら積極的に活動している様子が見える。児童の英語の学習に対する学習意欲を大切にしながら、これからも継続して本市の特例校としての取組を推進していきたい。
 一方、「あまり楽しくない」「楽しくない」と答えた児童が約1割いる。学年が上がるにつれて学習内容等が難しくなってくることもあり、高学年になるにつれてその割合が増えている。学年の発達段階に応じて、学習意欲を高めるような指導方法の工夫改善を行いながら授業に取り組んでいく必要がある。



【Q2について】
 全体的に、「とても楽しい」「楽しい」と児童が感じている活動の中でいちばん多かったのが、前年度と同じく「ゲーム」である。「ゲーム」については、約6割の児童が楽しいと感じている。どの学年でも楽しく活動することができ、学習意欲を高める活動として大変効果的であることが分かる。
 次に多いのが「歌やダンス」である。児童は、英語に親しみながら歌を歌ったり身体を動かしたりする活動にも楽しく取り組んでいることが分かる。
 また、「友達と英語を使って話すこと」も、12%の児童が楽しいと答えていて、前年度より増加している。今後も、英語でのコミュニケーションを大切に授業展開をより一層図るようにする。



【Q3について】
 英語を使って友達と楽しく活動できている児童は、全体の76%となっている。英語による児童同士のコミュニケーションを楽しみながら、児童が学習に取り組んでいることがうかがえる。また、授業においても、学習した英会話を積極的に活用し、お互いに話したり聞いたりする活動が多く取り入れられていることが分かる。
 ただ、24%の児童は楽しむことが「あまりできない」「できない」という回答で、昨年度より若干増加していることが課題となっている。苦手な児童に対しては、簡単な英語を話す経験を増やし、英語で伝わる喜びや自信をつけていくことにより、積極的に取り組むことができるように指導方法を工夫することが大切である。



【Q4について】
 全体の約7割の児童が、英語を使って外国の人と話してみたい、学んだことを活用してみたいと考えていて、前年度より増加している。授業以外でも、臆することなく自分から進んでALTに話しかけようとする児童も増えている。ただ、約3割の児童が話してみたいと思わないと回答している。今後も、ALTを効果的に活用しながら、積極的に外国の人とのコミュニケーションを図ることができるようにしていくことが大切である。
 また、授業で学習した内容が実際の生活や、外国の人との会話をする時に、学んだことを生かせることを児童自身が感じられるような必要感のある学習にしていけることが大切である。

【保護者・学校関係者からの意見・要望等】
 保護者や学校関係者からは、宇城市が1年生の早い段階から楽しみながら英語活動に取り組んでいることに対して肯定的な意見が多く見られた。また、ALTや英語専科だけでなく担任の先生もしっかり準備をして取り組まれているところが素晴らしい、という意見もあった。
 今後も、ICT機器やタブレット、デジタル教科書等を効果的に活用しながら、コミュニケーション能力の向上や外国の文化、習慣に慣れ親しむことができるような取組が期待されていると考える。

【考察・今後の展望等】
 全体的に、すべての項目において前年度と同じような傾向が見られた。どの学校においても、英語の学習に対して児童はとも意欲的に取り組んでいる。また、指導者は積極的に英語によるコミュニケーション能力を高めるような授業実践に取り組んでいることがうかがえる。
 今後も、学習した英語を様々な場面で積極的に活用し、友達や外国の人と積極的にコミュニケーションを図ろうとする児童を育成していく取組を推進していくようにする。